

## 当社名誉顧問、故今村雄二郎さんと過ごした日々

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

<<最後に今村さんにお会いした日のこと>>

高齢ではあったが、何時も元気そうだった当社名誉顧問の今村さんが昨年9月4日、亡くなられた。

その1月前位にIHIの仕事でPratt & WhitneyとのNDA契約締結の話があり、会社に来て頂き、相談に乗って貰ったのが対面でお話した最後です。

少し、言葉に勢いがなくなっている印象を受けたが、いろいろと適切なアドバイスを頂きました。

まさか亡くなられるとは思わず、

資料を整理した上で、改めてお願いする旨を伝え、別れました。

背広とネクタイを着用、この時もそうだが、いつも端正で姿勢の良い人でした。

<<今村さんとの出会いと当初の印象>>

今村さんと初めてお会いしたのは、2002年の5月頃だったと思います。

当社の創業13年目、トヨタやNTTデータの仕事が軌道に乗り、

社員200名、売上も漸く20億円を超えるころ、

世界同時不況も未だ感じない中で、新たな事業を模索していた時です。

昔からの知り合いのソフトウェア会社の先輩社長、大沼徳さんの紹介でした。

大沼さんは人を紹介するのが好きで、今までにもいろいろな人を紹介され、

私としても多少辟易気味で、大抵その場限りで終わりにしていました。

今村さんと会って話しをすると、高齢ではあるがいつもと話が違う、

その体力気力、知識と教養、ITと航空機、機材解析への情熱に改めて驚いた。

NASA開発の炭素繊維材料の解析ソフトの販売権を得て三菱重工に入れたが、

これからサービスを行い、更に横展開する上でソフト会社と協業したい、

受けてくれるなら事業立ち上げを手伝いたい、そんな趣旨でした。

私も、エンジニアリング系の次の展開を考えていたので、

資金も十分ない中小企業の立場で不安ではあったが、踏出すことを決めました。

<<当社での仕事、GENOA事業を中心として>>

当社に来て5年間は、GENOA事業部事業部長として部門の立ち上げと共に困難な中での販売活動を担当して貰いました。

GENOA事業部の立上げの為に、技術側のトップとして東大の航空工学専攻の院卒で、私と同じユニバックにいた解析専門家の古賀さんに来て貰いました。古賀さんは、FEM解析のNASTRANを日本で最初に導入した人です。技術系のパッケージ販売営業の経験者数名にも声をかけて採用し、社内からもエンジニアリング系SE数名を加え、初期のチームが出来ました。時代の最先端に行く、今村事業部長率いる複合材解析事業部のスタートです。

当時の民間航空機市場に於ける課題は燃費であり機体の軽量化、その解決策がCFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastic:炭素繊維強化プラスチック)、米国のボーイング社が2003年に発表したB787 Dreamlinerがその答えだった。計画ではCFRPを95%使う次世代旅客機、開発当初のコードネームはB7e7、eは最大の特徴であるSuper-efficientをB777に次ぐeightに掛けた名称だ。今村さんも見ていた当時の投資会社の内部文書(\*1)があるので参照欄に載せる。炭素繊維は、東レや帝人系の東邦テナックスなど日本メーカーが先行する材料、しかも、ボーイング社は機体製造を国際共同開発のリスクシェアで外部委託、三菱重工は、川重の胴体と共に主翼開発で手を挙げるようになっていた。今村さんが最初のGENOAを三菱重工に納められた背景でもある。しかもJAXA、三菱重工は後のMRJとなる国産旅客機の研究もしており、CFRP市場の広がりとその解析ソフトGENOAの将来性には期待が持てた。今村さんの先見性と共に、我々の見通しにも、それなりの根拠があったのである。

1COPY、4千万円の商品で、利用先は限られた大企業の研究所か開発部門、GENOA事業が簡単に立ち上るとは思っていないが、炭素繊維の複合材が、いずれ航空機や自動車に採用されて行くとの将来性だけは、固く信じていた。この事業を通じて、ビジネス的な成功は得られなくとも、日本で最初に複合材解析に踏込むことで、相応の技術蓄積と人材育成が出来、加えて会社としての信用とブランドを高められるならそれで十分だ、と考えた。今は中小下請けのITサービス会社であっても、いつの日か必ず、知る人ぞ知るエンジニアリング・ソリューション・サービス企業に脱皮する、そんな想いの下、専門性を大事にブランドで立上るのがビジネスの近道と自分に言い聞かせた。促成栽培的ではあったが、今村事業部長の下、まずは顧客開拓活動に動き出した。

走り始めると有力なプロスペクトは 30 社以上に上り、明るい展望が広がった。しかし、この種の製品販売は横展開を急ぐよりも、顧客を絞り込んで実用化課題を定義し、それを一つひとつ乗り越えて行くことが何よりも大切なことだった。いろいろな商談の中でトヨタの生技からの現場要求があり、これに集中した。フィラメント・ワインディング方式の燃料タンクの仮想試験に使えるのか、どの位の圧力でどこから傷が生じ、亀裂進展で壊れて行くのか、物理実験データと対比し仮想試験で検証する作業だ。今村さんは、専門技術者顔負けの知識と情熱でこのテーマに取り組み、社内で議論、条件を変え実験を繰り返し、米国窓口の A S C の社長や技術者に問い合わせる。トヨタの生技部への報告書の纏めもチームメンバーの先頭に立って進めていた。結果的には材料データの不足もあり、もう一步の所で受注が先送りとなる。時代が早いのか中小の限界か、その後の販売活動にも限界が見え始めていた。楽しくも苦々しい想いを胸に収め、販売ビジネスからサービスへ舵を切直した。

それからの 3 年間は、GENOA 販売と技術サービスを切離した時期と重なる。今村さんには、販売子会社 I E S (IVIS Engineering Systems) 会長として、複合素材も扱えるもう一つの N A S A 開発の軽量解析パッケージ、部材の最適配置を決める H y p e r S i z e r (H/S) の代理店契約を進めて貰い、実際は G E N O A 事業の縮小整理も兼ね、H/S の顧客拡大に集中して貰った。

アイヴィスの本社側では、GENOA ユーザーである J A X A と本田技研でのサービスに力を入れ、特にホンダでは解析ソフト R A D I O S と G E N O A の連携作業でレーシングカー用複合材モデルでの衝突解析の研究支援を行った。I E S 側では、H/S の販売をベースに利用実績を積上げることに注力、I E S 社長には、当社取締役の成井を当て、顧問には、成井社長の友人でもある当時、東海大航空宇宙学科教授で学長補佐もされていた故平岡先生を迎え入れ、顧客を大学や研究所に絞り、アカデミック・ディスカウンドで開拓を進めた。その頃の話であるが、平岡先生の紹介で G E N O A や H/S の売り込みの為、J A X A 航空宇宙センターの石川センター長 (\*2) や東大航空の鈴木教授 (\*3) の所に伺った時のこと、今村さんはセールスより技術的関心から航空機の将来に触れ「CFRP を使うことで高効率化・エコ化が出来る」と熱く語り、先生方と意気投合していたことを、今村さんの思い出として成井元社長が話していた。

J A X A の次世代超音速機の設計には、今村さんの子飼いの技術者、折原さんを投入、今村さんも H/S を媒介に機体設計から内部構造にも深く関わり、報告書作成と共に、材料研究先の東北大金属材料研などへの設置導入にも尽力された。

当社の事業主体がサービスに移る中で、日本でのGENOAビジネスは、米国のASC社が世界的な解析専門企業MSC社との提携関係を強化することになり、顧客の保守も含め当社の役割は終り、事業の区切りをつけることにした。この間に、炭素繊維の加工技術が進んだこともあり、今では、航空機機体は勿論、軽量化と強度の必要な自動車の車体や部品にも使われているが、加工など周辺技術のことも考えるとGENOA販売は時代の先を行き過ぎていた感じもする。しかし、今村さんの指導の下、当社も一定の社会的役割を果たしたことは確かで、人材育成の成果が今のトヨタやIHIの仕事に繋がっていることを考えると、夢を追って努力した日々は、会社にとっても大切な時間であったと思う。

GENOA事業の区切りの付いたリーマンショック後の2010年頃からは、今村さんには、当社の非常勤顧問として、JAXAの超音速機的设计作業などをフォローして貰う傍ら、ITサービス企業の当社の企画・技術面などを大所高所から見て貰っている。仕事を通じて感ずるのは、今村さんの様々な技術分野での人脈の広さだ。技術部長として今村さんと歩んできた古賀さんの言によれば、国の内外を問わず、私企業、官公庁など航空関係の人脈が特に広く、前述のJAXA石川理事も今村さんの人脈には感心されていたとのことである。

<<今村さんの人柄を振り返る>>

今村さんの経歴と生き方考え方は、以前に書いて頂き、今回当社HPに再録した「私の風土記」に記されており、今更、私が付言する立場にはないが、敢えて感じたままを述べさせて貰えば、波乱の人生を越えて来た永遠の青年の姿が、そこにある、これが私の感想です。

年を取ってからも先端技術やビジネスへの関心は失せることなく、自ら学び、個人的な興味を超え、ある種の使命感を持って積極的に行動した人だ。当社に来られる前、軍用機以外にも国産航空機YS11や各種計算機、人工知能へ深く関わり、当社に来てからも前述のNASAの炭素繊維解析ソフトウェア、次世代超音速機設計に必要な最適配置システムを掘起し、自らも参加行動した。仕事以外の場でも、安全な炉と言われるトリウム原子炉、バイオや半導体の最新研究、DNAデータベース等々、よく考え調べていた。海外情報など話題の豊富さも今村さんのキャリアを考えれば当然だろう。

近くの小料理屋でお話を伺う時など日本のこれからの技術課題で話が尽きない。前向きな姿勢と大局押さえ将来を見越した議論には、何時も感心させられた。

歴史と同様、人生にも、もしもはないが、今村さんがダグラス・グラマン事件に巻き込まれていなければ、GENOAとの出会いもなく、今村さんと我々との出会いもなかったが、今の見識をもって、大手商社か大企業で、時代の新事業を立ち上げていれば、その先見性と行動力、才能と知識、情熱から必ず大成功されていた、と思う。時代を先取りした構想も、人材も資金も不足する中小では行詰まってしまう。すべては私の責任だが、今村さんの情熱を想うと申し訳ない気持ちがする。

ただ、今村さんで感心したのは、事実を踏まえ理を尽して話すときも協力してくれたこと、ベストを尽くして敗れても、後はサッパリしていたことがとても印象的だ。自らも苦勞をされ、深く世界を見て来たことで相手の立場が分るのか、永遠の青年のスポーツマンシップが今も脈々と生きているのか結果に拘らない姿勢は事業整理する上でも有難かった。気持ちを切替え何時の間にかご自分で新たな目標を設定し、再び何かに熱中している姿はいかにも永遠の青年、今村さんらしい身の処し方、生き方だった。

<<会社も今は順調、改めて今村さんとの出会いと過ごした日々を想う>>

当社に来られた時は、今村さんは年齢 70 を超えておられたと思うが、前述の古賀さんの思い出でもあるが、今村さんの鍛えられたゴルフの腕前は凄いと驚いていたことを思い出す。12、3 年前の社内旅行で 2 回ほど一緒にプレーした時の思い出の様であるが、その飛距離と方向性、距離感の良さに、本当に驚いたと話していた。ただ、ここ数年の社内コンペでは、往年の面影が無くなっておられたとの印象も持っている様であった。

この古賀さんは、今も当社で活躍、熱流体構造の解析で、若手を指導している。当社は、名古屋地区に 100 名近くの技術者がいるが、主流はトヨタの現場で、電池材料や新車構造を対象に、最新のシミュレーターで解析をしている人達だ。

又、IHIではIES元社長の成井を中心に航空機事業本部を支えている。宇宙空間での自己位置検知やAIによる自動走行などで分野は違うが、防衛省やJAXAの仕事も当社の成長分野の一つになっている。

人は、年齢と共に衰え、何時か亡くなるのは、人間である限りの定めであるが、自分が情熱をかけて挑戦した仕事は、仕事を通じて育てた文化や人材は、次の世代や社会に有形無形の形で引継がれ、新たな芽を育て、道を拓いて行く。今村さんの描いた夢と想いは、アイヴィスの文化の中に引継がれている、と思う。アイヴィスを媒介に、次世代を担うITや航空宇宙分野の技術者に影響を与え、時代を超えて文化や想いが受け継がれ、何時か別の形で新たな道を拓くものだ。GENOA事業の成否とは別に、今村さんの情熱が育んだ遺産と言っても良い。

私は、街の中小企業の社長に過ぎないが、当社に入社後15年近く一緒にいて多くの楽しい思い出と共に、いろいろと学ばせて貰った。

今村さん、本当に有難う、改めて今、そう思う。

私も何時の間にか74、

長生きは出来ないが、今村さんを見習い、せめてあと5年は頑張る積りだ。

私も又、学んだことを次の世代の若者へ繋いで行ければと思っている。

最後に、慎んでご冥福をお祈りします。

遠くから、これからもアイヴィスの成長を見守っていて下さい。

いつも、にこやかな笑顔を湛えておられた今村さんを思い出しつつ、合掌。

#### <参考>

(\*1) Boeing 7e7 a financial analysis (原文は2004年に書かれている)

<https://www.slideshare.net/vishalprabhakar2/boeing-7e7-a-financial-analysis>

(\*2) 石川 隆司 :

(CFRPの権威 当時、「JAXA理事、先進複合材評価技術開発センター長」  
現在「名古屋大学、ナショナルコンポジットセンター、特任教授」)

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/a/BGAFI.html>

(\*3) 鈴木 信二 :

東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授

<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030196828/>